



なぜ企業に 人権啓発が 必要なのか

上映時間22分 字幕版付き

DVD 本体価格 66,000円(税抜)

[C#3410]



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

<http://www.toei.co.jp/edu/>

なぜ企業に人権啓発が必要なのか

「企業にとって人権啓発とは？」

企業にとっての人権啓発とは何なのでしょう？具体的な人権課題を並べてみましょう。頭では、差別や偏見なく、人権に配慮して行動しなければいけないと知っているとは思いますが、では、自分の日々の業務の中で、何ができるのでしょうか。

この教材は、人権啓発を考えるためのヒントを、企業を舞台に日常の会社生活の一コマを切り取ったわかりやすいドラマとして構成し、あらためて考えていただくための素材としてご活用いただけるよう制作しました。

あらすじ

CHAPTER 1 ハラスメントに気づく① 話せる関係

若手社員の大江はいつも主任の松田に怒鳴られている。「これはパワハラだ」と、大江は課長の田辺に相談している。すると、そこに松田が現れ、ある事情がわかってくる。



CHAPTER 2 ハラスメントに気づく② イヤなことはそれぞれ違う

営業部内の若手社員の岩崎と、ベテラン社員の大林は、女性同士の会話のなかで、お互いが不愉快になることを言い合っている。田辺課長が二人を呼んで事情を聞くことに。



CHAPTER 3 障害者と自然に

会議室で、聴覚障害者の山森が必死に議事を目で追っている。山森は口の動きを読んである程度会話を理解することができる。しかし、会議などでの工夫を巡って田辺課長らにあえて相談する。



CHAPTER 4 外国人に学ぶ

部長の河野は、インド人社員に「牛のようだ」と言われてカチンとくる。しかし、話をしてみて、これは文化の違いであるということがわかってくる。



CHAPTER 5 性の垣根を越えて

河野部長は、女性活躍の社内研修について田辺課長に愚痴をこぼす。田辺は、「結婚や出産でやめてしまう女性がなぜ多いとお考えですか？」と河野に迫る。



CHAPTER 6 適性と能力のみで採用されたい

河野部長の娘・愛子は就職活動中。しかし、面接時に適性と能力に関わりのない不愉快な質問をされて怒っている。河野は、採用時の配慮について自分の考えを愛子に伝える。

プロデューサー 中鉢裕幸／新井英夫
監督 前田和男
撮影 白石晋也
照明 香川和代
録音 阿保 毅

制作協力 株式会社 映広
企画・制作 東映株式会社 教育映像部

2014年作品

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区橋本町5-2 〒730-0015 ☎082-511-2066
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……